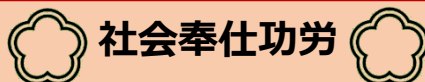


今泉 郁代氏

令和2年度国立市市民表彰



今泉 郁代

昭和52年5月、国立市赤十字奉仕団に入団。平成27年5月から平成31年4月まで国立市赤十字奉仕団委員長。令和元年から会計、災害対策部長として後進育成をされている。

国立市赤十字奉仕団に入団されたきっかけを教えてください。

末っ子が小学校に入学した年で、昭和52年5月でした。お隣の尊敬するご婦人より声をかけられました。保育園の送迎がなくなったので、「少し社会奉仕の方に力を貸していただけませんか。」と、近所の友達と3人で赤十字奉仕団のお仲間に入れていただきました。当時、義母も元気だったので、都合のつく限り出ていきました。そのためよく働く新人と思われ、次々に役員がまわってきました。西の副分団長、副委員長、それに、都支部の常任委員まで43年はあつという間でした。

国立市赤十字奉仕団の活動内容について教えてください。

- ・ 献血車が来た時のお手伝い
- ・ 老人ホーム、グループホームでのお手伝い
- ・ 市役所、社会福祉協議会のイベントでの救護係
- ・ 家庭看護法（昔の呼び名）、健康生活支援講習会、その他たくさんの講習会
- ・ 災害時の訓練、包帯法、非常食 など

活動の中で印象的な出来事がございましたら教えてください。

以前、国立駅前に献血車が来ましたが、協力者が少なく困っていました。しばらくすると、若い方が大勢やってきて、受付前に並び始めたのです。その嬉しさは今も忘れません。以前、市内にあった美術・造形の専門学校の生徒さんがクラス全員でやってきてくれたのです。

あと、家庭看護法の講師の方が、「時間の挨拶で、“病人を抱えて大変ですね。”と良く使われるフレーズですが、看病している人よりも、看病されている人の方がどんなに大変かということをよく考えてください。」とお話されました。今でもその言葉が心に残っています。

今後の課題などはありますか。

高齢化に伴って、災害訓練なども活発にできません。今後は、避難所での訓練を行っていくようだと思います。そして、災害があった際、このころのケアなどの活動が必要になるのだと思います。しかし、今までのような災害訓練を活発に続けていくには、若い方にお仲間になってほしいです。



▲街頭募金にて